

## 第2回 ADLS (Advanced Disaster Life Support) 岡山プロバイダーコースに参加しました(2014/10/18-19)

場所：川崎医科大学附属病院（岡山県倉敷市）

2014年10月18日(土)、19日(日)の2日間、岡山県倉敷市の川崎医科大学附属病院で開催された第2回 ADLS 岡山プロバイダーコースに参加しました。ADLS コースは NDLS (National Disaster Life Support)コース内の上級コース（医師・看護師向け）で、NDLS とは 9.11 米国同時多発テロ事件を契機に米国医師会、CDC、ジョージア大学、テキサス大学などを中心に設立された多数傷病者災害対応トレーニングプログラムです。他に BDLS コース（医師・看護師・救急消防隊員・自衛官・行政職員など向け）、CDLS コース（医学生向け）があり、全世界で約7万人（日本では約 1800 人）が受講しています（佐々木は 2014 年 2 月に BDLS 受講済）。ADLS コースでは学習済みの災害対応の知識をもとに、より実践的な実習や模擬患者を動員したトリアージ訓練などを2日間行います。

初日は多数傷病者発生事案の覚知から公衆衛生緊急事態の把握、本部立ち上げ手順の確認などから始まり、その後は爆破テロや塩素ガス漏洩を伴う列車の脱線事故、建物の崩壊を伴う爆発といったシナリオに基づくスキルス・ステーション、タイバック®などの个人防护具を着衣した上での医療行為訓練（写真は佐々木、気管挿管中）、そして模擬患者 70 名参加の多数傷病者仮想実働訓練を繰り返し行いました。仮想実働訓練では、川崎医大や周辺看護学校の学生が外傷患者に似せた特殊メイク・衣装（ムラージュといいます）を装い、各々がある設定に基づいた病態変化で傷病患者を演じます。訓練



会場はかなり暗くスモークが焚かれたり瓦礫が落ちていたり、さらにはテロリストがまだ残っていたりして、ヘルメット・ヘッドライトを着用し個人の安全を図った上で多数傷病者の迅速な TTT (triage, treatment, transportation) を行わないと、多数患者も自身もあっという間に命を落としてしまうシビアな設定となっており、何度も肝を冷やし冷汗を流しました。最後にポストテストを受け無事にプロバイダーコースを終了しました。

米国発のコースのためテロ事案など日本の現状とはややかけ離れた点もありますが、国連防災世界会議を控えたここ仙台ではあながち縁のない話でもありません。多数傷病者が発生するという点では巨大自然災害でも同様で、放射線防護訓練では福島原発事故にまつわる医療活動を彷彿とさせるものがありました。

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）